

レシートに思うみんなの幸せ

四日市市立笹川中学校

3年 青 陸翔

私はレシートに書かれた十%税を見て、少し損した気持ちでした。以前、消費税が八%から十%になると発表された時のニュースでも「また税が増えた」、「増税しないでほしい」と、あまり良い反応ではない人もいたためか私は、税というものにあまり良い印象がありませんでした。母にその事を伝え、母は「税がなかったらあなたは死んでいたかもね。」と言われて衝撃を覚えた。

母は看護師で、私が生まれる前は小児科で働いていた。その頃の小児科は感染症にかかって亡くなったり、後遺症で苦しむ人も多かったそうです。その中の一人、五才の男の子はずい膜炎になり、一命を取りとめたが、大きな後遺症が残り、介護が必要な状態になってしまったそうです。そのお母さんは「この子が生きていて形があるだけで良かったです。」と言って泣いていたが、母は良かったとは思えず、とても悔しかったことを今でも覚えているそうです。その後私が産まれる頃に、その病気の予防接種が開始になり、母は迷わず私に接種させたそうです。だが当時はその予防接種は自費で回数も多く、金銭的な負担が大きかったため、接種させない人も多かったとのことでした。

しかし後に定期接種という無料で受けられる予防接種になることで多くの赤ちゃんが接種できるようになりました。それは全て税金から支払われているそうです。母はあの時この予防接種があればあのお母さんと子どもはもっと幸せだったかもと考えるそうです。

人の幸せって何だろう。世界の幸福度ランキングで一位を毎年獲得しているフィンランドでは消費税が二十五%で、日本の倍以上あります。調べてみるとフィンランドでは医療福祉や教育費の多くが税金でまかなわれています。出産から高度な医療に到るまで医療費が無料、小学校から大学院までの教育費が無料です。そのため人々は一生において不安に思う事が少なく、幸福度が高いと言われているのではないのでしょうか。

曾祖母の初盆で読教した時に「生死の苦海ほとりなし」と言う言葉があった。仏教によると人は皆、生老病死という四つの逃げられない苦しみがあるそうです。その言葉を聞いた時に、その逃げられない苦しみを和らげてくれる事が人々の幸福につながるのではないかと思った。そしてそれが社会福祉であり、それは税金なしに成しえない。

お母さんが「税がなければあなたは死んでいたかもね。」と言った意味を私は深く考えた。

育休明けで復職した母は「あれからずい膜炎は減ったんだよ」と笑う医師の言葉に本当に良かったと思ったそう。今母はNICUという小さな赤ちゃんや、病気になった赤ちゃんを治療する病棟にいる。その赤ちゃん達が元気に一生を過ごす事ができるならば。私はレシートに書かれた10%税を見て誇らしい気持ちになった。